



日本国際学園大学
JAPAN INTERNATIONAL UNIVERSITY

令和8年度(2026年度)日本国際学園大学 入試日程

総合型選抜の入試区分には「総合型」「定時制」「通信制」「グローバルマインド」「海外ルーツ」の5つの区分があります。多様な入試区分から志願者自身の背景やこれまでの学び、経験などに合わせた入試方法を選択することができます。出願資格認定者が、総合型選抜「事前相談タイプ」により出願した場合、面接（一般面接及び課題に沿った応答）は免除となります。「事前相談」を希望される方は、本学HPよりオープンキャンパス等のイベントをご予約の上、参加してください。

入試区分	期	出願期間（消印有効）	面接日	可否発表日
総合型選抜 ＜事前相談タイプ＞ ＜面接タイプ＞	1期	9月 1日(月)～10月 2日(木)	10月11日(土)	11月 1日(土)
	2期	10月13日(月)～10月23日(木)	※事前相談タイプのみ 出願可能	11月 7日(金)
	3期	10月27日(月)～11月 6日(木)	11月15日(土)	11月21日(金)
	4期	11月24日(月)～12月11日(木)	12月20日(土)	12月24日(水)

筆記試験は、国語、英語、数学より1科目を選択します。学業特待生選抜は、学費負担を軽減し、意欲のある学生が安心して学業に専念できるよう設けられた制度です。成績優秀な方に対し、学費を減免します。

入試区分	期	出願期間（消印有効）	試験日	可否発表日
一般選抜	1期	1月12日(月)～1月22日(木)	1月31日(土)	2月2日(月)
および	2期	2月2日(月)～2月19日(木)	2月28日(土)	3月2日(月)
学業特待生選抜	3期	3月2日(月)～3月12日(木)	3月21日(土)	3月23日(月)

入試情報の詳細につきましては、本学HPの「入試情報」よりご確認ください。

入試情報



令和7年度(2025年度)日本国際学園大学
オープンキャンパス日程を公開しています

公式HPにて随時公開中！▶▶▶



日本国際学園大学教育研究振興寄附金につきまして

日本国際学園大学の開学を記念し、新しい時代に相応しい日本国際学園大学の教育研究の維持向上並びに教育研究施設設備の充実を図るため寄附金を募っています。

詳細はこちらから



発行：日本国際学園大学 21世紀型教育研究所

発行日：2025年9月

住所：〒305-0031 茨城県つくば市吾妻3丁目1番地

電話：029-858-4811(代表)



JIU21C教育Forum

Vol.11

巻頭特集

日本国際学園大学JIU21C教育フォーラム特集
本学卒業研究がVR研究で
全国的アワードを受賞!

科研費研究紹介

教授 荒幡 克己

日本稲作の国際競争力の劣化と安定性の再評価



日本国際学園大学
授業研究会報告

教授 倉橋 節也

教授 谷本 茂明

助教 ヨルン タイラー

助教 澁谷 知之

助教 陳 祥



日本国際学園大学
JAPAN INTERNATIONAL UNIVERSITY



Good Experience Design Student Award (拡張体験デザイン協会) 受賞

授賞者

犬嶋美雨さん
経営情報学部
(2025年卒業)

授与式の様子は
大学Instagramで
公開中！



Good Experience Design Student Award

犬嶋美雨さんが、Good Experience Design Student Award (拡張体験デザイン協会) 受賞！卒業研究でもあるメタバース研究が高く評価され、授与式が2025年3月27日に行われました。

授与式 2025年3月27日(木)

賞の目的

メタバースやXRを利用した製品・空間・サービス・情報等における新しい体験デザインとその効果の検証を行っている優秀な学生を奨励し、ユーザ体験デザインの優秀な研究事例とその研究を進めた優秀な学生を広く社会に紹介すること。

会場 日本国際学園大学

選考基準

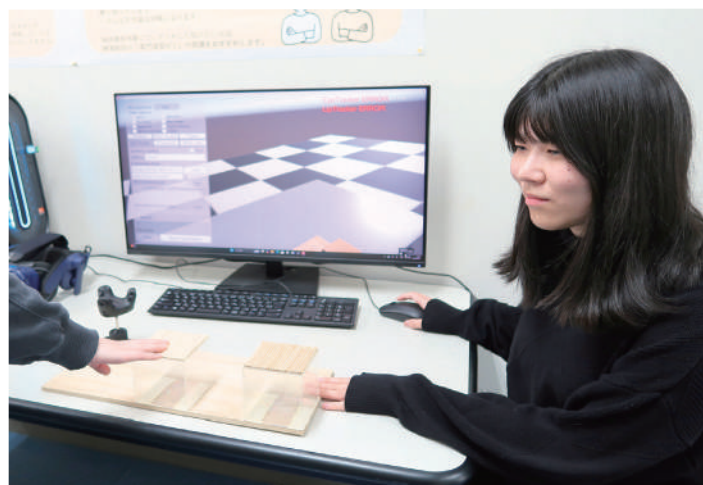
ユーザ視点で評価した体験やデザインの設計や開発に関する研究であり、データ(アンケート、生理計測、行動計測、等)に基づいてユーザ体験に対する効果を説明されているもの。(URL 参照 拡張体験デザイン協会コンソーシアム)

犬嶋美雨さん
(2025年3月卒業)

VR空間で物体の凹凸感や材質感といった視触覚情報が、身体所有感に与える影響について、心理学的実験に基づいて検証しました。凹凸の視触覚情報の一致度を操作することで、身体所有感が高まることがわかった一方、材質の視触覚情報の一致度の変化による身体所有感への影響はみられませんでした。また何度も繰り返し物体に触っていると、ある程度の不一致条件下でも身体所有感が高まったことから、練習効果が確認できました。今後、触覚刺激による身体所有感への影響についてさらに実験を重ね検証することで、VR空間における技術発展につながると期待されます。

この卒業研究は、日本国際学園大学の横澤一彦・卓越教授の指導のもとで行われました。

お問い合わせ ☎ 029-858-4811 ✉ info@japan-iu.ac.jp



Good Experience Design Student Award (拡張体験デザイン協会)を受賞した犬嶋美雨さんをはじめ、横澤教授のゼミ生の卒業研究体験談をご紹介します。

「VR空間における視触覚体験が身体所有感に与える影響」

「VR空間における視触覚体験が身体所有感に与える影響」というテーマの研究を行いました。VR空間という特殊な環境において、実際に用意された凹凸や材質の異なる物体に触るリアルな触覚体験を行った時に、身体所有感に影響を与えるのか、そのような触覚体験は身体所有感を高める効果はあるのかを調べました。卒論開始前には、とりあえず経験できることは経験してみようと考えていたように思います。あとは横澤先生のサポートを受けることができるということが取り組む理由の大部分を占めていた記憶があり、貴重な経験になるだろうという考えがありました。元々心理学や人間の特性、認知といったものには興味があったので、自分で新しいことを知ることができるかもしれないという点に魅力を感じていました。実験準備では、実際に実験参加者が触るものを制作したのですが、材料を購入する際にどのような材料を使用することが適切なのか、店頭で悩んだ記憶があります。実験実施時にはどの実験参加者にも同じ条件で実験ができるよう、説明する際に緊張していました。私個人としては、数字に弱いため、データを分析する時が最も大変でした。何度も横澤先生に統計分析の方法を聞きながら、なんとか分析できたという思い出があります。実際完成してみると苦労するだけのものを形にすることができたという達成感と充実感があります。これから卒業研究に取り組む皆さんは、1年間大変な思いをするかもしれませんが、卒論で得られる経験や知識、確かな自分の成果が一つ手元にあるという事実は皆さんの自信となり人生の支えとなってくれると思います。



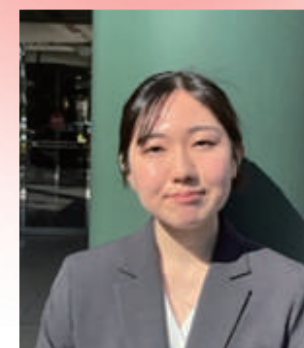
犬嶋美雨さん
(2025年3月卒業)

授賞学生

「VR空間における視点位置が距離推定に与える影響」

横澤ゼミ卒業研究体験談

私は卒業研究で、「VR空間における視点位置が距離推定に与える影響」というテーマに取り組みました。VR空間で視点の高さが変わったときに自分から見た対象物までの距離感の捉え方は変化するのかということを調べました。結果として、視点の高さが変わっても自分から見たターゲットまでの距離感の捉え方は安定していることが分かりました。最初は、どのように卒業研究に取り組みばよいか分からず、視覚心理という分野を自分で研究できるのだろうかという漠然とした不安を抱えていました。しかし、「大学生だからこそできることに挑戦し、自分の可能性を広げたい」と考え、卒業研究に取り組むことにしました。実際に卒研に取り組むなかで、私が最も苦労したのは、実験データに常に気を配ることでした。実験条件の設定や、データ分析、文章作成など、あらゆる段階で常に気を配っていました。そのどれもが難しそうな課題に見えますが、横澤先生のゼミでは、難しい課題も生徒自身でクリアできるように、細かい段階分けをしたうえで、毎週の宿題として与えられます。そのため、毎週の宿題をクリアしていけば難しいと思っていた課題も自分の力でクリアすることができます。自分の力で実験を計画し、データを収集するという経験は、卒業研究でしかできない貴重なものです。私自身も、研究テーマの設定から実験計画、データ収集・分析、結果のまとめまでの一連の過程を通して得た知識や経験は、社会に出る上での大きな自信となりました。

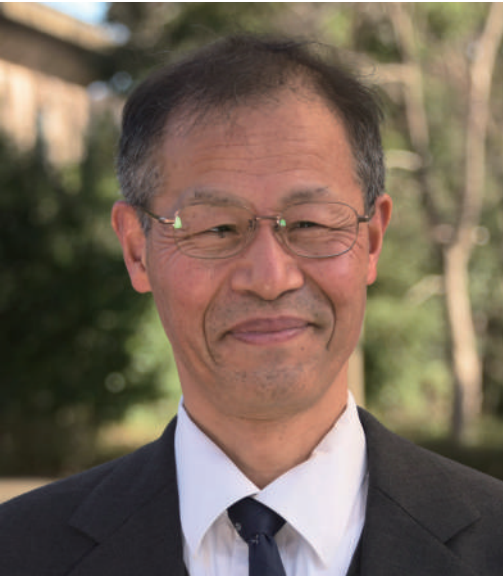


鈴木瑞穂さん
(2025年3月卒業)



日本国際学園大学 科研費研究紹介

日本稲作の国際競争力の劣化と安定性の再評価



日本国際学園大学 教授 荒幡 克己

【略歴】東京大学農学部卒、農林水産省行政官(大臣官房企画室等)、岐阜大学農学部教授歴任
【学位】東京大学 博士(農学)
【専門分野】ミクロ経済学、公共経済学、農業経済学、社会経済史

米不足と米価高騰が示す日本稲作の現状

令和 5 年、6 年と日本の米は不作が続き、加えて需給操作の誤り等もあり、米不足となり、米価は高騰しました。ただでさえ物価上昇で、家計が苦しくなっている折に、生活必需品とも言える食料の、その中でも最も必需性の高い「米」の値段が二倍にもなったことは、消費者にも高い関心を呼びました。

米価の値上がりの話も、詳しく話すと興味深い側面もありますが、ここでは、世界の稲作で、今、何が起きているかを説明します。日本国際学園大学では、学生にも常に、「国際的視野」から物事を考えるように、日頃の講義の中でも呼びかけています。

日本は、古来、米作の適地である、と言われてきました。「瑞穂の国」、更に詳しく「豊葦原の瑞穂の国」ということばがあります。秋、稲が豊かに実るのが、日本の国の象徴的な風景です。それでは、現在、この豊かな実りは、国際比較をすると、どうなるのでしょうか。

図は、米の面積当たり収穫量を国際比較したものです。左が今から 50 年以上前、1969 年の世界順位です。右が現在の順位です。

表 世界の米単収の過去 50 年の推移



ライバル諸国の収量増加と日本の伸び悩み

約 50 年前、日本は世界ランキングで第三位でした。ところが、今は 15 位です。日本は、50 年の間に、次々と諸外国に抜かれてしまいました。今では、アメリカ、更には中国、韓国にも抜かれています。多くの日本人は、広大な平地のアメリカや、中国東北部の平原の水田では、大型機械で効率的に稲作が進められ、面積当たりのコストでは敵わないが、それでも面積当たりの収量では、そこそこに上回っている、というイメージを持っている方が多いでしょう。しかし、それは思い違いです。「豊葦原の瑞穂の国」という言葉から、日本という国は、日本の象徴とも言える水田と稲作で、豊かに米が実っている、とい

う光景を連想します。そして、実り方で、諸外国に劣っている、という客観的事実に、耳を疑うでしょう。しかし、現実を直視する必要があります。

更に見逃してはならないのは、ライバル国の驚異的な面積当たり収量(単収)増加のペースです。アメリカ、中国ともに、玄米換算値で、ほぼ毎年 4kg/10a のペースで単収が増加しています。15 年で一俵(60kg)/10a 増加していくペースです。日本は、過去 15 年の単収の伸びを単年単収換算した値で見ると、530kg から 537kg へと、わずか 7kg の伸びです。ほとんど停滞しています。

雨と日照のバランスが生む稲作環境の違い

もう一度、世界の稲作単収ランキングを見ると、第二位にエジプトが入っていることに気づくでしょう。エジプトは、言うまでもなく「砂漠の国」です。第一位のオーストラリアも、稲が作られている所は、半乾燥地帯です。アメリカ・カリフォルニアも、地中海性気候で、温帯冬雨気候であり、生育期間はほとんど雨が降らず、特に夏から秋の登熟期間は一滴の雨も降らないほど晴天が続きます。

水稲作にとって、水の存在が決定的に重要であることは、論を待たないでしょう。水田と豊富な灌漑水は、稲作にとって不可欠です。そして、雨の日は、恵みの雨をもたらします。しかし、その一方で、作物学、生物学的に考えると、あらゆる植物にとって共通のこととして、光合成が重要です。日照時間、日射量に比例して光合成は進み、葉は茂り、実りの秋につながります。これは、雨の日よりも晴天の日が多い方が良いでしょう。

雨の日と晴天の日、どちらも重要ですが、不可欠な要件であるのは、やはり「雨」です。田植えの時期に重なる梅雨期、雨に恵まれた湿潤気候の日本は、稲作適地でした。

ところが、他の地域で降った雨水を灌漑水として引いてきて灌漑に使えるとしたら、どうでしょう。事態は一変します。雨がほとんど降らない地域は、逆に考えると、晴天の日が多い。それは、日照時間、日射量が多いことを意味します。光合成にとって好条件です。そこに、他地域で降った雨を灌漑水として引いてくれば、作物にとって絶好の生育環境が実現することとなります。

世界の稲作で、過去 50 年で起こったことは、日射量が多く光合成が盛んにできるこうした地域が、単収の上に優位に立ったことです。エジプトはナイル川の水を、カリフォルニアでは、ロッキー山脈に降った雪、雨を溜め込んだダムから引いた灌漑水を、それぞれ登熟期に雨が一滴も降らないような地域で使うならば、それは、理想的な水稻の生育環境に変わるのです。日本でも、九月の長雨がある太平洋側よりも、晴天が続く日本海側が単収が高くなってい

ます。
安定性と歴史に支えられる日本稲作の強み
このように考えると、日本の稲作の将来について、やや悲観的な見方しかできなくなりますが、一方、自信を持つべきこともあります。

表をもう一度見て下さい。「変動係数」という項目があります。これは、次式で求められます。

変動係数 = 標準偏差 / 平均値

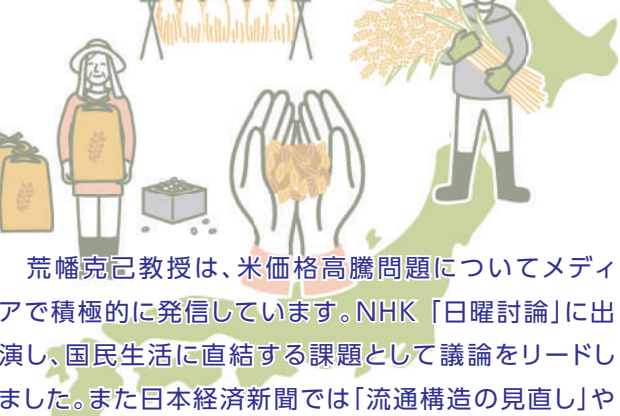
この値が低いほど、生産が安定していることになります。日本は、世界一、抜群の安定度です。ここ数年は、高温障害により稲作の不作が報じられていますが、それでも、日本の稲作は世界一安定しています。

更に、付け加えたいのは、日本稲作の過去の栄光です。戦後間もなくから昭和 43 年まで続いた「米作日本一表彰事業」では、昭和 30 年代に、下記の三人の方が単収1トン(1,000kg)穫りを記録しています。

富山県魚津市の上楽菊氏(昭和30年度1,014.6kg/10a)
長野県松本市の北原昇氏(昭和33年度1,023.9kg/10a)
秋田県比内町の工藤雄一氏(昭和35年度、1,052.2kg/10a)

当時ギネス記録はありませんでしたが、ほぼ間違いなく、当時の世界新記録でしょう。確証はできませんが、もしかすると、それは、現時点でも、破られていない記録かもしれません。表に示したように、世界一位のオーストラリアや二位エジプトの多収は、玄米換算で800kg 台なので、900kg 台の後半あたりまでは、記録を出している人がいるかもしれませんが、やはり1,000kg は、大きな壁です。それを破った三人の方には敬意を表します。

日本の稲作も、このような過去の面積当たり収量の水準の高さや、現在の安定度にプライドを持って、また再び、世界の中で順位を上げて、競争力を増していくことを期待しています。



荒幡克己教授は、米価格高騰問題についてメディアで積極的に発信しています。NHK「日曜討論」に出演し、国民生活に直結する課題として議論をリードしました。また日本経済新聞では「流通構造の見直し」や「在庫の可視化の必要性」について解説記事が掲載され、専門家としての見識が注目を集めています。農政の制度的課題と市場の需給バランスを総合的に分析し、社会に警鐘を鳴らし続けています。

授業研究会報告

本学では学内でアクティブラーニングなど新たな教育の手法を共有するという観点から、全専任教員を対象とした授業研究会を毎月1回実施しています。研究会では発表者が報告する授業実践の工夫や課題について、教員たちが活発な議論を交わしています。今回は2024年度10月～2025年3月開催の研究会について報告します。



教授 くらはし せつや
倉橋 節也

【略歴】筑波大学大学院経営・政策科学研究科企業科学専攻 修了
【学位】博士(システムズ・マネジメント)
【専門分野】経営情報学

■ 授業研究(2024年10月24日開催)

人と人とのつながりに関する研究として、企業炎上、合意形成リーダーシップ、科学の教育システム、組織パフォーマンス分析、対面コミュニケーション効果、COVID-19感染予防などを紹介した。授業研究として、ビジネスマネジメント特論Aで実施予定である、ビジネスゲームについて、その目的、構成、評価方法について説明を行い、引き続いて経営管理論で実施したアクティブラーニングの成果として、日本国際学園大学のSWOT分析やPPM分析を学生が実施した結果を説明した。その中で、大学の魅力をどのように発掘し伝えていくかや、専門分野の教育のあり方などについて、学生の考えを紹介した。

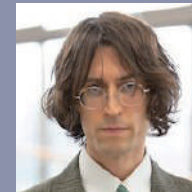
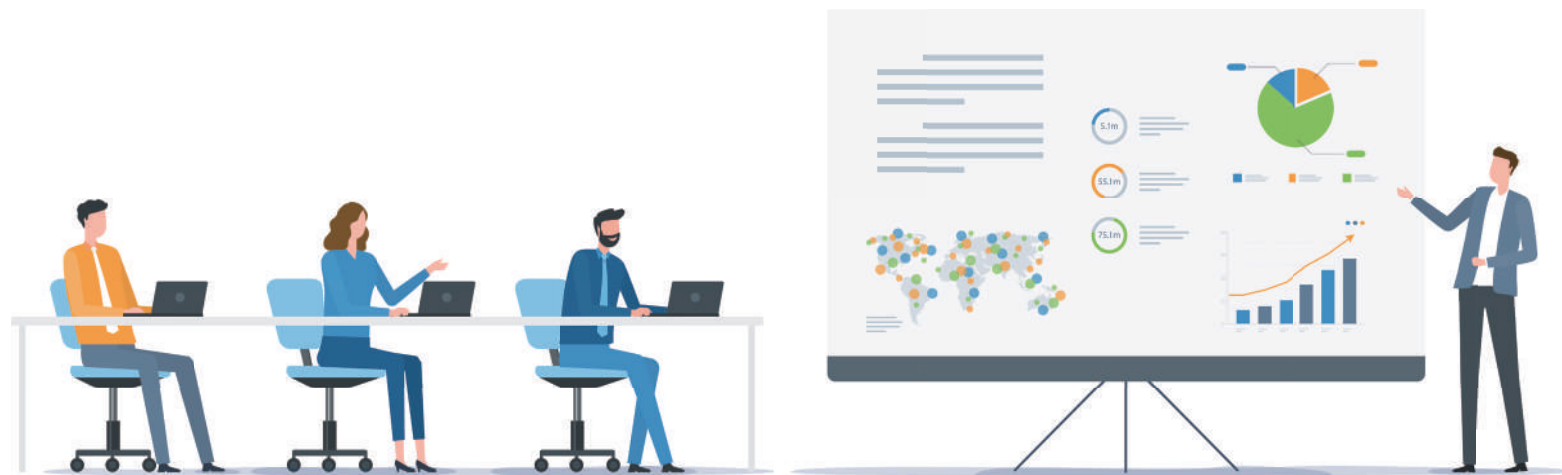


教授 たにもと しげあき
谷本 茂明

【略歴】徳島大学大学院工学研究科システム工学専攻 修了
【学位】博士(工学)
【専門分野】情報セキュリティ、情報ネットワーク、通信工学

■ 「講義系と演習系」授業のPDCAサイクル(2024年11月21日開催)

現在、担当する講義系および演習系科目において、授業のシラバス作成から成績評価までのPDCAサイクルを通じて得た知見やTIPSを紹介した。講義系科目では、講義内演習や5ミニッツレポートを通じて学生の理解を促進した。演習系科目では、学生の集中力がおよそ15分程度持続するという経験則に基づき、15分講義と15分演習を基本パターンとし、演習課題を多く設定した。これらの知見をもとに、今後も授業改善を継続する予定である。



助教 ヨルン タイラー

【略歴】英国ユニバーシティ・オブ・ワーウィック大学大学院社会科学学部哲学学科 修了
(Ph.D. in Philosophy, Faculty of Social Sciences, University of Warwick)
【学位】博士(哲学)
【専門分野】哲学

■ Content Language Integrated Learning (CLIL) Teaching Humanities in English in Japan (内容言語統合型学習日本における英語で学ぶ人文学の授業)(2024年12月19日開催)

国際教養モデルでは、英語力が異なる学生(上級者と初心者)が同じ授業を受けることが課題です。CLIL(Content and Language Integrated Learning, 内容言語統合型学習)は簡潔な英語で高度な内容を教授し、日英資料で学びを支援する効果的な手法です。特に上級者は内容に集中でき、初心者は教科書を使わず自然な形で英語を練習できます。



助教 しぶや ともゆき
澁谷 知之

【略歴】東北大学大学院法学研究科法政理論研究専攻博士後期課程 修了
【学位】博士(法学)
【専門分野】法哲学

■ 小規模大学における少人数制教育の効用と可能性ー日本国際学園大学の授業での取り組みー(2025年1月30日開催)

本学の教育環境を活かしうる授業手法と工夫を報告した。段階的な理解促進の手法と添削が特に効果的と思われた。例えばプレゼンテーション形式の授業においては、全体像と本文を整理するため、学生は二種類の「構想シート」を段階的に作成し、両者の添削を受けながら発表内容をまとめていった。また、論文執筆の授業では、学生は課題ごとに論述の流れを明瞭化する「論理シート」を作成し添削を受け、その後の授業で論文執筆に取り組み、さらに添削を受けた。この結果学生は自ら分析を深め、論理性と説得力ある提言や執筆が行えた。研究会での貴重なご意見を参考に、少人数制教育の魅力をさらに高める授業を探求してまいりたい。



助教 ちん しょう
陳 祥

【略歴】筑波大学大学院人文社会科学研究科国際日本研究専攻 修了
【学位】博士(国際日本研究)
【専門分野】日中対照言語学、認知言語学、語彙研究、日本語教育

■ JIUにおける留学生の現状と日本語指導に関する一考察(2025年3月27日開催)

今回の授業研究会では、本学における留学生の概要および日本語指導に関する考察を報告した。主に「留学生日本語A・B」や「日本語リテラシー」科目を担当し、さらに「JLPT対策」「奨学金」「スピーチコンテスト」なども指導した。授業運営においては、本学の日本語教員と連携しながら進め、留学生が日本語能力N2レベルを習得できるようサポートしたり、奨学金合格に向けて必要なスキルを身につけたりできるよう、毎回の指導に工夫を凝らしている。2025年度は、2024年度の取り組みを踏まえ、今後も学生一人ひとりに寄り添う日本語指導を行っていきたい。